

令和4年度日本小児外科学会
第3回定例理事会議事録

日 時：令和4年10月26日（水）10：00～14：00

会 場：岡山コンベンションセンター＋WEB

出席者（岡山コンベンションセンター）：

奥山宏臣（理事長・会長）、小野 滋（副理事長）、田尻達郎（理事・次期会長）、石橋広樹、浮山越史、内田広夫、大植孝治、田中 潔、湊本康史、米田光宏（以上理事）、黒田達夫、山高篤行（以上監事）、照井慶太（庶務委員長）、藤野明浩（庶務副委員長）、上原秀一郎（財務会計委員長）、野田卓男（第38回秋季シンポジウム会長）、木下義晶（施設認定委員会委員長）、岡島英明（専門医認定委員会委員長）、柴田晶子、仁田尾慶太（以上事務局）

出席者（WEB）：

神山雅史（庶務委員）、浦尾正彦（財務会計副委員長）、古村 眞（専門制度庶務委員会委員長）、臼井規朗（第39回秋季シンポジウム会長）

議事案件

- 1.第3回定例理事会の議事録署名人は、大植 孝治理事・内田 広夫理事とした。
- 2.令和4年度第2回定例理事会議事録につき、一部文言の修正を加えて、全会一致にて承認された。

3.審議事項

1)第60回学術集会について(奥山会長)

奥山会長より提出された資料に基づき報告され、承認された。

- ・パネルディスカッションはアンダー45 ワーキンググループメンバーに協力してもらう予定であることが報告された。
- ・要望演題のテーマは設定しないことが報告された。
- ・学生・初期研修医の方々に発表していただき、その中から優秀演題を表彰する予定であることが報告された。
- ・準会員のセッションを設定することを検討していたが、会員数が少ないため応募しづらくなる可能性を考慮し、多職種連携のセッションとしたことが報告された。準会員の他、非会員のメディカルスタッフも参加可能なセッションであることが報告された。
- ・配信についてはオンデマンドとするか配信のみとするか、検討中であることが報告された。

2)第61回学術集会について（田尻次期会長）

田尻次期会長より、準備状況が報告された。

- ・会長招演、拡大懇親会を検討していることが報告された。

- ・ライブ配信を検討していることが報告された。

3)第 38 回秋季シンポジウムについて(野田秋季シンポジウム会長)

野田秋季シンポジウム会長より進捗状況が報告された。

- ・450名の参加登録があったことが報告された。
- ・会場での金銭の授受はないことが報告された。

4)第 39 回秋季シンポジウムについて(臼井次期秋季シンポジウム会長)

臼井次期秋季シンポジウム会長より進捗状況が報告され、承認された。

- ・COVID-19の感染状況に関わらずハイブリッド開催を予定していることが報告された。
- ・チャット使用について、料金も含めて検討していることが報告された。

5)第 40 回秋季シンポジウムについて(田中次々期秋季シンポジウム会長)

田中次々期秋季シンポジウム会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

- ・秋季シンポジウム開催日は2024年10月26日、一橋講堂を予約済であることが報告された。
- ・上原財務会計委員長より抄録アプリは本棚形式となっており、一回20万円で使用できるので活用してほしいとの意見が述べられた。

6)各種委員会報告および審議事項

(1)庶務委員会(照井委員長)

- ・照井委員長より、資料に基づき報告された。2022年9月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,649名(うち海外2名)、準会員25名、評議員307名、名誉会員56名(うち海外8名)、特別会員67名(うち海外1名)、賛助会員1団体(2口)の合計2,104名+1団体である。
- ・準会員増員のために認定施設に手紙を出すこと、学術集会で入会申込ブースを設置することが承認された。
- ・米田理事より、U45WGメンバーに学会の未来を考えるとという意味で会員増加について検討してもらってはどうかとの提案がなされた。

(2)財務会計委員会(上原委員長)

上原委員長より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(3)専門医制度委員会(木下施設認定委員会委員長、岡島専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長)

木下施設認定委員会委員長、岡島専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会

委員長より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・ 専門医試験のタイミングについて、機構に要望を出したことが報告された。
- ・ すでに専門医資格を取得している会員について、更新時に機構認定医に移行するものと認識していたが、まだ確定していないことが確認された。外科学会認定医との連動認定が問題である。
- ・ 旧制度と新制度で試験を変えることについて、専門医制度委員会で検討することが承認された。旧制度の更新は外科学会の方針に従うこととなった。

(4)機関誌委員会(大植担当理事)

大植担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・ 前回の理事会で質問された、写真の代わりとしての動画投稿を可能とした場合の確認事項について報告された。
- ・ サーバー使用料などの追加費用について、動画投稿頻度が増えた場合には外部サーバーをレンタルすることを想定しており、レンタル料金として年間1~2万円程度が見込まれることが報告された。
- ・ 動画の具体的な閲覧方法は J-STAGE での公開方法の一つである Bib-J という方法を継続予定であることが報告された。
- ・ 印刷版での動画の記載方法は、機関誌委員会で検討することが報告された。
- ・ 「メディカルオンライン著作権許諾サービス」を通じ、某製薬会社からの転載許諾申請2件が、転載費用の具体的な案とともに、株式会社メテオを通じて届いたことが報告された。
- ・ 2016年に「メディカルオンライン著作権許諾サービス」を締結した際の内容や経緯を調べたところ、今回のような申請の際に機関誌委員会としてどう対応すべきか議論されていなかったことが判明した。現状では同サービスを利用しつつ許諾申請した場合と直接編集部へ申請した場合で異なる判断や費用の発生が起り得るため、この点を含めて機関誌委員会で検討後、理事会で報告することが述べられた。
- ・ 株式会社メテオからの転載許諾依頼については機関誌委員会で判断することが確認された。
- ・ HPの転載、引用申請書については理事長、副理事長、国際広報委員担当理事、学術委員担当理事に報告し、許可を得ることが確認された。

(5)国際・広報委員会(淵本担当理事)

淵本担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・ 第31回日本医学会総会に提出するポスター案について、一部修正の上、提出することが承認された。
- ・ 5名のメンバーからなるHPの英文ページ作成ワーキンググループを立ち上げたことが報

告された。

(6)保険診療委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・10月20日に開催されたWEB会議について報告があり、シロリムスの要望書を小児外科学会からも出していただきたいとの声があったことが報告された。
- ・奥山理事長から正式に医薬品医療検討委員会担当理事・委員長に「リンパ管疾患に対して保険適応となったラパリムス錠について、使用する際にはシロリムスの血中薬物濃度検査を必要としているが、現時点で保険収載されていない。次期診療報酬改定時に特定薬剤治療管理料として収載していただく」ための要望書提出の依頼をすることが決定した。

(7)教育委員会(内田担当理事)

内田担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・第13回小児内視鏡外科手術セミナーはPSJM2日目である令和4年10月28日(金)にハイブリッド形式で開催されることが報告された。
- ・第38回卒後教育セミナーは「肝・胆道疾患」「新生児疾患」をメインテーマに令和5年7月30日(日)に完全webで開催することが報告された。
- ・第14回小児内視鏡外科手術セミナーは第38回卒後教育セミナー終了後に完全webで開催する予定であることが報告された。
- ・PRビデオ作成については、委員により6つのビデオ構成案を作成し、委員所属施設の学生・若手医師にどの構成案がよいかアンケートを行ったこと、業務委託候補の自治体アニメ制作所と株式会社ブルークスに相談中であることが報告された。
- ・E-learningについて、外科学会のシステム見直しが来年2月の運用開始を目標に行われているため、外科学会からの連絡を待っている状況であることが報告された

(8)悪性腫瘍委員会(大植担当理事)

大植担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・9月12日のWEB会議について報告された。
- ・2011-2017年追跡調査について、2023年6月の学術集会で報告を行うことが報告された。
- ・理事会で承認された通り、近畿地区の幹事として、大阪市立総合医療センター小児外科三藤賢志先生が追加されたことが報告された。
- ・11月上旬にWEB会議を開催する予定であることが報告された。

(9)学術・先進医療検討委員会(米田担当理事)

米田担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・小児救急検討委員会の宮城委員長からの学術アンケート調査「新型コロナウイルス感染症による小児外科診療への影響に関するアンケート調査」について、学術・先進医療検討委員会で再審議した結果、問題ないとの結論が出たことが報告され、アンケートを実施することが承認された。
- ・鹿児島大学小児外科の村上雅一先生より審議依頼があった「小児外科専攻医・専門医の内視鏡外科手術の修練環境・執刀経験数と執刀自立性の相関の解析」について審議した結果、学会での発表前に学術・先進医療検討委員会に報告することとし、アンケートを実施することが承認された。

(10)倫理・医療安全管理委員会(石橋担当理事)

石橋担当理事より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(11)データベース委員会(田中担当理事)

田中担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・NCD（小児外科領域）を用いた前向き研究について報告され、誰かが手を挙げたときに行うこと、チェックはデータベース委員会が担当することが承認された。
- ・2020年度NCD複数領域研究について、研究代表者の奈良県立医科大学 澤井利夫先生から「7. 利用を必要とする学会保有データ」への「専門医制度に関する情報」の追加について要望書が提出されたことが報告され、承認された。
- ・2021年度NCD小児外科領域研究について、研究代表者の獨協医科大学 渡邊 峻先生から抽出・解析する項目・変数に、「手術実施施設（日本小児外科学会認定施設・教育関連施設・そのほかの施設）」を追加することについて要望書が提出されたことが報告され、承認された。

(12)小児救急検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・2022年9月18-19日に開催された2022年度PALSについて受講予定だった4名の内1名が熱発で不参加となったが、受講した3名のアンケート結果が概ね公表であったことが報告された。
- ・2023年度はBLSを9月16日、PALSを9月17-18日に開催予定であることが報告された。また、参加人数は12名までとすることが報告された。
- ・2021年施行「新型コロナウイルス感染症による小児外科診療への影響アンケート調査」について、委員会報告として学会雑誌への投稿準備中であることが報告された。
- ・2022年度門田班調査について報告された。

(13)トランジション検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より、資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・トランジションガイドブック、移行支援患者サマリーについてパブコメ募集を国際広報委員会に依頼していることが報告された。
- ・トランジションアンケート調査について地域別にまとめることを検討しており、原著論文投稿準備中であることが報告された。

(14)ワークライフバランス検討委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より口頭で、「ハラスメント防止宣言」をHPに掲載したことについて報告された。

(15)規約委員会(石橋担当理事)

石橋担当理事より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(16)研究倫理委員会(石橋担当理事)

石橋担当理事より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(17)NCD 連絡委員会(淵本担当理事)

淵本担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・厚労科研研究計画書「小児外科における新型コロナウイルス感染の影響に関する NCD データ解析研究」について：2021 年の解析項目、新生児外科、緊急手術、救急搬送、高難度手術症例の成績（リスクカリキュレーター）の内容を加える予定であることが報告された。
- ・NCD 入力データの監査（Audit）実施にあたり、訪問施設から距離的に近い委員がない場合、委員のみで担当するのには限界があり、今後、Audit の意義について広く理解を得ること、また調査が全国的に行き渡るようにすることなどを見据えて、調査員を評議員にもお願いしてはどうかとの意見が出たことが報告された。これに対し、訪問施設に近いというだけの評議員に依頼するより地域性を考慮して委員の人数を増やすこと、データベース委員会のように補佐をお願いすることを検討してはどうかとの提案がなされた。
- ・NCD 入力データの監査（Audit）については委員の仕事のため日当は出さないが旅費は出すこと、2022 年度予算として外部に委託することを予定して 30 万円組んであることが確認された。

(18)ガイドライン委員会(米田担当理事)

米田担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・急性腹症診療ガイドライン改訂協力依頼について、不参加の方針であることが報告された。
- ・腸回転異常症診療ガイドラインについて、11月に企画会議を開催する予定であることが報告された。
- ・ガイドライン委員会が事務局を担当している小児胃軸捻転症診療ガイドラインについて、8月～10月にかけて2次スクリーニングを行い、11月にSRレポートを完成させる予定であることが報告された。
- ・学会ホームページ掲載ガイドライン集について、掲載内容をスリム化し、2022年6月更新が完了したことが報告された。
- ・2023年4月に開催される第123回日本外科学会定期学術集会の上級セッション「より高く、より遥かへ」-「ガイドライン診療の検証」に、演題『希少小児外科疾患診療ガイドラインの効能・限界とその先について』を提出中であることが報告された。
- ・日本外科学会「外科学用語集 Web版」の改変要望について、『胃軸捻(症)』胃軸捻転〔症〕を新たに追加で決定したことが報告された。また、『イレウス』腸閉塞への修正については継続審議であることが報告された。

(19)利益相反委員会(奥山理事長)

奥山理事長より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(20)医薬品・医療機器検討委員会(内田担当理事)

内田担当理事より、資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・昨年リンパ管疾患に対して保険適応となったラパリムス錠について、薬剤の投与量調整にあたり血中濃度検査が必要となるが、この検査が現状では保険適応外のため、シロリムスの血中薬物濃度検査の保険適応と特定薬剤治療管理料の対象としての掲載を学会から要望する方向で検討中であることが報告された。
- ・学会のホームページ(website)に掲示されている日本医学会からの文書「医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取扱いについて」に関して、保険適応外の目的で薬剤を使用する際(適応外使用)に、その薬剤が再審査期間を過ぎたもので、かつ専門的・医学的見地から判断され広く適応外使用が認められているもの(学術的に正しく薬理作用に基づき処方されたもの)あれば、55年通知に基づいての対応が適切であると考えられるため、そのような学会員からの要望に対応できるようその内容を委員会内に周知したことが報告された。

(21)総合調整委員会(小野委員長)

小野委員長より、資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・10月17日に開催された令和4年度第2回総合調整委員会について報告された。

- ・アンダー45 ワーキンググループ（以下 U45WG）への参加は 2022 年 10 月 31 日をベ切とし、11 月 10 日にキックオフミーティングを開催する予定であることが報告された。
- ・U45 WG は規約・任期を定め、毎年募集することが報告された。

(22)日本外科学会理事会(田尻前理事長)

田尻前理事長より、9 月 12 日に開催された理事会について報告された。

(23)四者協関連(奥山理事長)

奥山理事長より、口頭で 9 月 21 日に開催された第 209 回四者協会議について報告された。

(24)選挙管理委員会（照井第 26 回評議員選挙管理委員会委員長）

照井委員長より口頭で、評議員選挙のお知らせをもう一度 HP の「学会からのお知らせ」のトップに掲載することが報告された。

7) 2022 年度領域審査認定料（33 万円）の支払いについて（奥山理事長）

奥山理事長より、資料に基づき、以下の点について報告、承認された。

- ・2022 年度領域審査認定料（33 万円）を支払うことが承認された。
- ・個人・施設に追加請求は発生せず、学会が負担するという流れが見込まれることが報告された。
- ・事務局から専門医機構にデータを送り、会員数に応じて機構側で認定料を決めることが報告された。また、機構から来年度は請求しないといわれたことが報告された。

8) 委嘱評議員について（奥山理事長）

奥山理事長より、日本小児麻酔学会に委嘱評議員の推薦を依頼することについて審議が求められ、依頼状を送ることが承認された。

9) 9 月 8 日（木）開催「学術集会の在り方の新たなコンセプト」に関する協議の議事録について（奥山理事長）

奥山理事長より、資料に基づき、以下の点について報告され、承認された。

- ・外科学会が学術集会運営の法人を設立するという案が出ており、参考資料としてサブスペ学会が学術集会の収支報告を外科学会に提供することについて、審議が求められ、事務局から 2019-2021 年の 3 年分の収支報告を送ることが承認された。

4.報告事項

1)理事長報告(奥山理事長)

(1) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会会報第 63 号」-支えるハンドブック」を受領した。

(2) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会ニュース No.74」を受領した。

(3) 日本小児在宅医療支援研究会からの寄贈本「第 11 回日本小児在宅医療支援研究会プログラム・抄録集」を受領した。

(4) ささえあい医療人権センターCOML からの寄贈本「COML30 周年記念誌」を受領した。

(5) 内田理事から、日本小児内視鏡外科・手術手技研究会で、小児外科領域ロボット支援手術の指針案を作るためのワーキンググループを立ち上げる事、作成した指針案は理事長へ上申後、学術先進委員会で検討していただき、理事会で承認を得るという流れになる予定であることが報告された。

2)次回定例理事会日程の確認(奥山理事長)

次回定例理事会は令和 5 年 1 月 16 日(月)11:00~16:00 大阪大学東京オフィスにて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____